

調査目的・概要

- 町内随一の観光拠点である「宮リバー度会パーク」を中心に、近隣の廃校や公民館など町有施設もあわせて活用し、地域全体の周遊観光を活性化させることを目指す。その実現に向けて、施設の老朽化や運営ノウハウ不足といった課題を踏まえつつ、持続可能な運営体制の構築に向けた調査・検討を行う。
- 調査・検討の結果、これまで不明瞭だった事業リスク負担を明確化・分散させ、民間事業者の参入を促す。これにより、町有施設の利便性や魅力を高めることで、地域内の観光客の回遊性を向上させ、滞在時間の延長や地域内消費の増加、地域経済の活性化を図る。
- 現在は個々に委託している施設管理業務について、一元的な運営方法やLABV方式、スモールコンセプション等の導入により、民間ノウハウによる効果的な運営とコストの最適化を図る。

調査内容・スケジュール

- 本事業は、官民連携による公共施設活用の実現に向けた制度設計と事業化可能性の検証フェーズにあたる。対象施設ごとに、事業性、リスク要因、管理コスト、老朽化状況、民間事業者の意向などを整理したうえで、官と民の役割分担や収益配分の在り方を検討する。あわせて、スモールコンセプション等の導入可能性も検討し、民間事業者の参入を十分に見込める制度設計を行う。
- 本事業の特徴は、単体施設の活用にとどまらず、中山間地域に点在する遊休公共資産（公園・廃校・公民館等）を面的に連携させた観光モデル構築を目的とする点であり、他自治体にとっても新たな地方創生モデルとなる。特に、森林や河川といった自然資源の利活用による面的開発の仕組みは、先例が少ない。
- 本調査を実施することにより、町有施設への民間ノウハウ活用が求められる状況の中、民間事業者が参入可能な事業スキームの構築、経済効果の可視化といった成果を期待している。本調査後は、これらの成果をもって、最適な官民連携スキームを設計し、事業者募集に向けた公募条件を明確化する。

調査スケジュール

調査内容	検討事項	6月	8月	10月	12月	2月
前提条件の整理	対象エリアの観光客数、施設利用状況などを資料調査や現地確認によって情報収集・整理					
事業範囲・対象の設定、事業モデル検討	宮リバー度会パーク等の公共施設を中心に、周辺の森林空間を含めた事業範囲を設定し、官民連携による事業モデル形態を検討					
事業者サウンディング	地域内外の企業へのヒアリングを通じ、官民連携における課題や協力可能性を把握					
事業効果の検討	施設単体・複数施設連携の両面で、対象施設の資産評価や財政効率化の効果、長期的な収支計画を検討					
リスク分担の整理・検討	行政・民間それぞれが負担すべきリスクの範囲を整理					
法的根拠の整理	公共施設の法的運用条件や条例の確認等、事業推進の障壁を特定					
全体事業スキーム・スケジュール整理	官民の役割分担、運営方式、資金調達手法を整理し、事業化に向けた具体的なステップを検討					

事業・施設の概要

【調査対象エリアについて】

- 度会町は、町内随一の観光拠点である「宮リバー度会パーク」を核に、**清流日本一の宮川、豊かな森林、茶畑などの地域資源**を活かした**町内全域**での周遊観光の実現を目指している。
- 町の周遊施策としては、近隣の玉城町・南伊勢町と連携した「サニーロードを中核とした**自転車周遊観光**」等に力を入れている。



【調査事業の概要】

- エリア内に点在する施設ごとに事業性・リスク整理や官民対話を実施しつつ、**スモールコンセッション**を想定した事業スキーム適用について検討。**官民の適切な役割・リスク分担のもと、施設連携やバンドリング等によるエリア(施設)包括的な事業を構築し、地域資源を活用した観光振興に取り組む。**
- 森林組合やJA等の**既存の地域事業者**の参画による地域の雇用拡大や、**新規事業者の参入も促進しやすい事業モデル構築を目指す。**

＜調査対象として想定している施設＞

- ・宮リバー度会パーク: **町直営**。約12haの**河川沿い**の公園で、遊具エリア、自然散策路などを備え、地元住民の憩いの場や地域イベントの開催地として利用。既存の河川アクティビティに加えて、**周辺の森林活用**も検討中。
- ・遊水プール鏡: 約1haのプール。**夏場限定で指定管理**により運営。地元住民や観光客のレジャー施設として利用されているが、**周辺施設との連携が不足**。
- ・旧一之瀬小学校(廃校): 備蓄品が保管された災害時の拠点。お茶や林業の**体験施設や滞在拠点としての利活用**を検討中だが、トイレなどの修繕が必要。
- ・一之瀬公民館: 役場から最も遠い公民館。住民サービスやコミュニティ形成の拠点として重要だが、**利用頻度は少ない**。**山域への玄関拠点や宿泊施設の近さ**を活かし、周遊観光時の休憩施設やコワーキングスペース等の活用を想定。



事業・施設の課題

【既存施設の課題】

- 宮リバー度会パークは河川区域を含み、浸水リスクが高く、周辺の森林活用においても**土砂災害リスク等があり、民間の参入障壁が高い**。
- 遊水プール鏡は年間で約40～50日間のみ運営。台風の影響で浸水した様子で約2～3万人の利用だが、**収支は赤字**。



- ➡ 拠点性のある公園と集客力のあるプールがあるが、度会町全体の関係・交流人口獲得につながっていない。民間のノウハウ活用を推進できる事業検討が必要。

【地域全体の課題】

現在、PPP/PFIの導入は遊水プール鏡の指定管理に限られており、**厳しい財政状況の中で公共施設のサービス維持・向上や地域活性化を図るには、民間の創意工夫や運営ノウハウの活用が不可欠**である。主な課題は以下の通り。

- ① 老朽化する公共施設の維持管理費確保が難しく、行政による新規投資も困難。
- ② 一之瀬地区をはじめ、自然資源を活用したくても、行政単独ではノウハウがない。
- ③ 事業の担い手が不足し、地域内の限られた事業者に頼らざるを得ない。
- ④ 施設が点在し連携が弱い上、宿泊施設は一之瀬地区に1か所あるのみである。

- ➡ 施設単体ではなくエリア全体の回遊性向上を重視し、官民の役割やリスク分担を明確にしつつ、施設の包括的・長期的な管理運営手法について検討する。

- ➡ 行政・地域事業者が無理なく関与できる仕組みを構築し、現物出資等の事業方式を考慮した廃校跡地利活用に加え、自然資源や茶畑を活用した施設間の連携強化や広域的な事業スキームにより、滞在時間延長と経済効果拡大を目指す。

検討経緯／事業化スケジュール

【これまでの検討経緯】

- 第7次度会町総合計画(R3年3月策定)の中で、「宮リバー度会パーク」を中心とした**観光資源の活用と周遊性の向上**を図る取組が計画されている。
- R6年度の議員懇談会では、遊水プール鏡の改修検討について議論が行われ、**周辺施設を含めて民間提案の受け入れが急務**であることが確認された。
- 現在、宮リバー度会パークへ民間活力導入を模索しているものの、**河川区域の規制や施設の維持管理負担、収益性の課題などから参入ハードルが高いため、実現性の高い事業スキームの構築が求められている。**

【調査後の事業化スケジュール(想定)】

- (R8年4月～8月) 事業計画案をまとめて庁内合意、概算予算の算出・公募準備。
- (R8年9月～12月) 事業説明会を開催し、民間事業者からの事業提案を公募。
- (R9年1月～6月) 提案を基に事業性を精査し、民間事業者と共同運営体制を整備。